

乳がん術後 動画活用を

継続的なリハビリへ県内初の無料配信

弘前大学医学部附属病院（袴田健一病院長）と県誘致企業のドラゴンエージェンシー青森支店（本社名古屋市、飯田真資社長）は25日、乳がん患者が術後に行うリハビリの動画配信システムを共同開発し、今月から無料配信を県内で初めて開始したと発表した。退院後の継続的なリハビリを実現し、患者の身体機能低下の予防・改善を図る。同病院はQRコードや使い方を掲載したチラシを院内で配布し、活用を呼び掛けている。

（稲葉智絵）

乳がんの罹患率は30代後半から増加傾向にある。本県では女性の罹患数で最も多いのが乳がんだ。乳がん患者を取り巻く環境について、同病院リハビリテーション部の津田英一部長は「医療技術の進歩で手術方法が多様化し、入院期間の短縮化も進んでいる。ただ、手術は肩関節に

弘大病院と企業 共同開発



無料で配信している乳がん患者向けの術後リハビリ動画

影響が出やすい。腕が動かしにくいといった症状を改善するため、術後リハビリが欠かせないと説明する。後遺症は個人差があり、持続期間もさまざま。そのため、同病院では術後リハビリに加え、身体機能低下の予防策として、退院後の通院リハビリや自宅で行える柔軟体操の指導を実施。しかし、育児や仕事を理由に中断する患者が多くなっていた。

課題解決に向け、県主催の「医療・介護関連ニーズ技術シーズ交流会」に参加し、昨年末から企業向けソフトウェア開発などを手掛ける同社との共同開発に着手。資金は県の補助金を活用した。

病院のプログラムを盛り込んだ動画は、時期別（手術翌日～チューブ抜去まで、術後1カ月ごろ、同2～3カ月ごろ）、症状別（腕の上がりが不十分、リンパ浮腫の対処など）があり、それぞれに合わせた柔軟体操と筋トレを紹介。回数や頻度、強度も提示した。25日に同病院で記者会見が開かれ、袴田病院長は「術後の早期リハビリは治療への満足度に大きく影響する。（動画配信は）質の高い医療提供体制の新たな一歩」と期待を寄せた。津田部長は「患者のニーズや効果を調査し、他のがんへ活用を広げていきたい」。飯田社長は「IT・情報技術」で地域課題に取り組んでいく」とそれぞれ展望を述べた。